

〔 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 〕

本誌編集室担当

短 歌

大過なく来し方過ぎて思ふのは
誰のお陰か思ひ知らされ

●宮古市 太田屋滋

熟練の技を求めて列をなす

包丁研ぎは戸田の朝市

●戸田市 久米壽彦

阿弥陀寺にビワの音冴えて物語

諸行無常よものの哀れさ

●松戸市 秋元輝美

白雨ゆらぐの去りし後には桶に水

手水てみずになるかいかかなものや

●福知山市 岨尾 充

天の川観ゆる土地へともどるのが

よいのか悩む都会の暮らし

●明石市 小田慶喜

夏立ちぬ学童帰る一列に

事故無き道を家路へ急ぐ

●愛媛県鬼北町 岸本繁義

京の夏祇園祭やコンチキチン

●長岡京市 宮先一雄

俳 句

孫達は秋をさがしに遠足へ

●鹿沼市 大貫秀雄

夏祭り江戸手拭に竜の顔

●小山市 原田利江

からすうり咲くを待ちみる時長し

●本庄市 長谷川千鶴子

青紫蘇や摘むたびごとに田舎の香

●草加市 長谷部禎子

畳這う見て見ぬふりの朝の蜘蛛

●戸田市 篠崎志津子

縄文の貝塚いまも星月夜

●東京都大田区 小池弘一

暑い中涼しさ作り汗をかき

●東京都葛飾区 東海洋一

読み書きを婆も勉強夏休み

●武蔵村山市 原野晴光

白南風や友より便り読み返す

●佐世保市 阿部淑子

尾を引いて沈黙一瞬大花火

●平塚市 田中博由

みじか夜やはやも東雲薄明かり

●長岡市 近藤 博

地場産の豊富に揃ふ夏野菜

●塩尻市 大家協治

男気の八十路気まぐれオミナエシ

●塩尻市 奥原光夫

草笛の色透きとおりにひびきけり

●塩尻市 小野正平

城跡へ続く路肩の唐辛子

●塩尻市 町田まさ子

静かさや青田に注ぐ水の音

●刈尾市 井戸和秋

水鏡映す机上の我がこころ

●西尾市 村井ひろみ

会心のひと玉まさに夏最中さなか

●野洲市 若松能夫

お互いに出会った頃に戻りたい

●戸田市 栗原ハツ江